

日本学術会議
臨床医学委員会 子どもの成育環境分科会（第25期第16回）
議事録

日時：令和4年11月7日(月) 18:00～19:00

場所：遠隔会議(zoom)

出席者：山中（委員長）、西田（副委員長）、浅野、伊香賀、大倉、定行、都築、吉野、水口、三輪（敬称略）

冒頭に山中委員長から、意見の表出の申出書（案）に対する親委員会のコメントに関する概略説明があり、その後、西田副委員長より、詳細なコメントの説明が行われた。以下のとおり、今回の発出を提言とするか、見解とするかについて、議論を行った。

- 親委員会からの主なコメントは、以下のとおり。
 - 体系的・包括的取り組みなので、学術会議からの発出は問題ないが、提言としてのインパクトまでではないのではないか。
 - 見解としての発出は問題ない。
 - 子どもの成育環境の変化から重要な課題である。
 - 見解と提言の違いは何か？
 - 発出主体が異なる。発出主体が、分科会なのか、日本学術会議全体かの違い。
 - 今回は、表出することが大事ではないか。今回は、見解でよいと思う。それを対応委員会に提出する方向でよいと思われる。
 - 見解と提言の主体の違いは、外部の人は、それほど気にしないと思われる。結局、学術会議からの情報に見えらと思います。
 - 今回は、①が行ったところ。今回は、「見解」に修正することを、親委員会に「報告し」、同時に、ステップ②に進む。すなわち、第2部（部長、副部长、幹事）に提出することで、進める。こちらの手続きは作本さんに進めて頂く。
- ① 親委員会への提出し、承認後。
- (ア)臨床医学委員会（第二部）
 - (イ)心理学・教育学委員会（第一部）
 - (ウ)健康・生活科学委員会（第二部）
 - (エ)環境学委員会（第三部）
 - (オ)土木工学・建築学委員会（第三部）
- 作本さんが進める。
- ② さらに、第二部（部長、副部长、幹事）（上のアとウとは違う）で見て頂くが、必要に応じて、第1部、3部に見て頂く必要がある場合もある。（事務の体裁チ

ェックは終わる)

- ③ 対応委員会に申出書を出して（令和5年1月31日まで）、助言と調査結果が返ってくる。
 - ④ 査読案（提言・見解案）令和5年3月31日まで
 - ◇ 査読は、親委員会。
 - ◇ その後、第2部。もしくは、合同、査読チームを作るかも。
 - ⑤ 査読の終了は4月中（1か月で査読修了は現実には厳しいので、早めに出す方がよい）。
- 今週中（11/11）ぐらいまでに修正案を作成し、作本さんに提出し、進めたい。

以上の議論を行い、次回の議題として、見解案に対する議論を行う予定である旨の説明がなされ、閉会となった。